



日本最古の金槌（かなづち）

「古代の幡鉾（はたほこ）川の河床からは、中国式工法の船着き場跡が発見されました。朝鮮半島系の土器や、北九州系の土器も多数出ています。日本最古、朝鮮半島製と思われる鉄製金槌（かなづち）も弥生時代後期（紀元1世紀）から古墳時代前期（紀元4世紀）の川の跡から出ており、中国の機械式弓である『弩（いしゆみ）』の鏃（やじり）、三翼鏃（さんよくぞく）も出土しています。」（原の辻遺跡調査事務所主任文化財保護主事・町田利行氏）

これまで、5世紀頃の前古墳時代のものが最古とされてきましたので、この出土例が日本最古となります。また同じ場所から、鉄製品の素材である板状鉄斧や鉄斧・鉄のみ、など多くの鉄製品が出土していることから原の辻遺跡に鍛冶工房があった可能性もうかがえます。

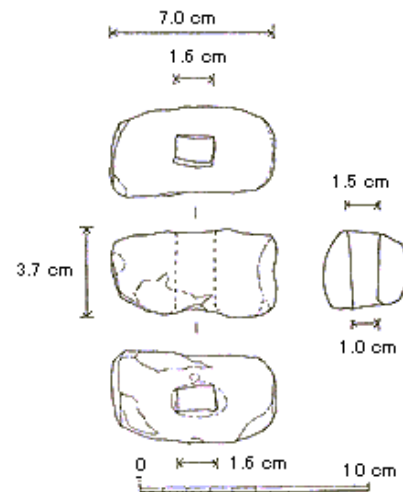
原の辻遺跡

長崎県壱岐（いき）、原の辻（はるのつじ）遺跡は弥生時代のデパートといわれるほどに研究価値があり、平成12年12月には国の特別史跡に指定された。壱岐の芦辺（あしべ）町と石田（いしだ）町にまたがる、約100ヘクタールの水田と畑地が遺跡の全域と推定されている。現在、発掘調査は全遺跡面積のまだ5%で、今後の調査で何が出るかわからないと地元も期待している。

「魏志倭人伝」の景初3年（239年）6月の「一支国」として、次のように記述された古代国家の王都の跡である。「対馬（つしま）国より南へ一海（いっかい）を渡ること1000余里で一支国に到着するの国の大官を卑狗（ひこ）、次官を卑奴母離（ひなもり）という。広さ300里平方ばかり、竹木・叢林（そうりん）が多く、300の戸ばかりの家がある。ここはやや田地があるが、水田を耕しても食料にはたらず、やはり南や北と交易して暮らしている。」



日本最古の金槌（かなづち）



参考図書

再現 日本史 原始・奈良 2 講談社 2001年
<http://www.harunotsuji.org/intro.html>

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

<http://www.kanamono.co.jp/>

e-mail ryou@memenet.or.jp



再現された2100年前の船着き場